

上平の地層と堆積岩

五箇山は、「秘境五箇山」とかつて言われたように、地形が険しく、そこを流れる庄川の本流や支流も深い峡谷を形成している場所が多くなっています。これは、五箇山地方を形作る山々の大半が、硬い火山岩でできているためです。その中で道沿いに堆積岩の露頭や転石（道ばたにころがっている石）を観察できる場所は限られていますが、数箇所あります。いずれも、陸上で堆積したれき岩層や砂岩層です。

・猪谷南方の林道沿いのがけが道路の改修工事で露出し、不整合が見えるようになった。「不整合」とは、火山岩や堆積岩が陸上で浸食された後、水没し、新たに堆積物が堆積した地層である。猪谷周辺の山々のほとんどは硬い火成岩からなるが、ある時、山崩れのため、天然のダム湖ができたらしい。このダム湖により、上流から流れてきた土砂がせき止められ、皆葎や猪谷周辺の平地を作ったと考えられる。ダム湖はその後決壊し、庄川の流れは再び谷を深く掘りこんだ。ここの露頭は、流紋岩の上に不整合に礫やシルト（砂と泥の中間的な粒）がたまった様子が見える断面である。一見、礫とシルトの間（写真の黄緑の線）も不整合のように見え、いわゆる「二重不整合」にも似ているが、礫とシルトの年代差はあまりなさそうで、専門的には「不整合」としてよいかは疑問が残る。ただし、教育用としては、「不整合」として説明した方が児童生徒には理解しやすいかもしれない。

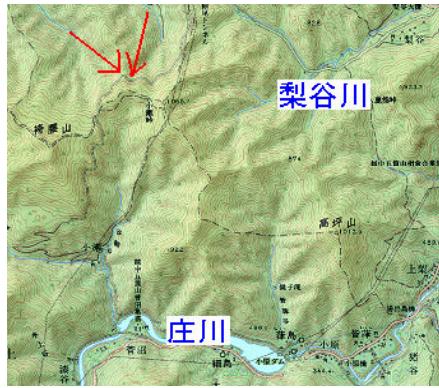
・小瀬峠付近の礫岩・砂岩層：細尾峠から小瀬へは、未舗装道ながら自動車を通れる林道がある。この林道に見える露頭はほとんどが安山岩や流紋岩の露頭であるが、小瀬峠付近に礫岩層と砂岩層がある。この地層は、地質図等では今から約2300万年ほど前に堆積した楡原層とされているが、城端を流れる山田川で見られる礫岩とは固結度も礫の種類もちがうため、もっと新しい時代の堆積物かもしれない。

・小瀬の羽馬家の敷地にある植物化石含有岩：小瀬にある羽馬家には、かつて工事のときに近隣の谷川で発見されたという植物化石含有岩がある。発見された位置や同定者も不明だが、「一億数千年ぐらい前のものと推定されています」という看板もある。しかし、植物種や岩質からはとても手取層群のものとは考えられない。周囲の山々の岩質から、今から約2000万年前の岩稲累層堆積時に、落ち葉に富んだ沼に溶岩が流れ込み、焼かれてできたものだろうか。

猪谷南方の不整合



小瀬北方の林道沿いに
見られる礫岩砂岩層



小瀬の羽馬家所有の化石

